

# dmonitor

平成 30 年 10 月 15 日 V00.00

JARL D-STAR 委員会

本プログラムは、新しいレピータプログラムの追加プログラム xchange のアドオンプログラム multi\_forward のインターフェースを利用して Raspberry Pi とターミナル/アクセスポイントモード機能を利用して、レピータのモニターを行うプログラムです。

以下の作業は root 権限で実行してください。

## 準備

Raspberry Pi に apache2 と perl をインストールします。

### apache2 のインストールと設定

```
apt install apache2
```

インストール後、cgi が実行できるように下記の設定をおこないます。

```
ln -s /etc/apache2/mods-available/cgi.load /etc/apache2/mods-enabled/cgi.load
```

/etc/apache2/sites-available/000-default.conf の最後から 3 行目の

```
#Include conf-available/serve-cgi-bin.conf
```

の最初の#を削除してセーブします。

### perl のインストールと web 用モジュールのインストール

```
apt install perl
```

```
apt install CGI.pm
```

### USB シリアルデバイスの別名の登録

/etc/udev/rules.d にファイル名 99-serila.rules として下記のセンテンスを保存しま

す。

```
SUBSYSTEM=="tty",          ATTRS {idVendor}=="0403",          ATTRS {idProduct}=="6001",  
SYMLINK+="IDxxPlus", MODE="0666"
```

一行です。

## apt の設定

### レポジトリの設定ファイルの読み込み

```
cd /etc/apt/sources.list.d  
wget -N http://app.d-star.info/debian/stretch/jarl.list
```

### gpg キーの設定

```
cd /var/tmp  
wget -N http://app.d-star.info/debian/stretch/jarl-gpg.key  
apt-key add jarl-gpg.key
```

これらが終了後（一度実行すれば、再度実行する必要はありません。）、dmonitor のインストールを実行します。

```
apt clean all  
apt update  
apt install dmonitor
```

を実行してください。この後 reboot（再起動）してください。これで、インストールは、終了です。

インストールした Raspberry Pi と ID-31Plus もしくは ID-51Plus2 を OPC-2350lu を使用して接続してください。その後、ブラウザを立ち上げて、先に dmonitor をインストールした Raspberry Pi に /cgi-bin/repeater\_mon

を指定してアクセスしてください。下記の様な表示がされます。（アクセス可能なレピータの一覧表です。）

## Multi Forward running Repeater

<a href="#">JK1ZRW A</a>	<a href="#">JL3ZBS A</a>	<a href="#">JP2YDP A</a>	<a href="#">JP2YER A</a>	<a href="#">JP2YGA A</a>
<a href="#">JP2YHB A</a>	<a href="#">JP2YHE A</a>	<a href="#">JP2YHG A</a>	<a href="#">JP2YHL A</a>	<a href="#">JP2YHM A</a>
<a href="#">JP2YHP A</a>	<a href="#">JP2YHQ A</a>	<a href="#">JP2YHR A</a>	<a href="#">JP2YHU A</a>	<a href="#">JP2YHW A</a>
<a href="#">JP3YIJ A</a>	<a href="#">JP3YIX A</a>	<a href="#">JP5YCU A</a>	<a href="#">JP5YCV A</a>	<a href="#">JP6YHN A</a>
<a href="#">JQ6YAA A</a>	<a href="#">JR2VK A</a>			

このレピータ名をクリックしますと、レピータに接続して、モニター状態になります。

### dmonitor からの送信機能

最新バージョン V00.10 では、dmonitor からの送信機能を実装しています。通常は、UrCallni に CQCQCQ を設定して使用してください。この状態では、dmonitor からの送信を他の dmonitor とレピータに転送します。これとは別に UrCall にコールサインもしくはエリアコールサインを指定した場合は、他の dmonitor、レピータそしてゲート超え側に転送します。

注意 このバージョンでは、レピータにインターネットと RF 側からのパケットを全て転送しています。この件計で、インターネット側からレピータの使用中でもパケットが送られてくることもあり、この場合は複数のパケットが転送されてくるため、音声途切れることがあります。また、各レピータのモジュールは A のみとなっていますので注意してください。

また、コマンドから

```
dmonitor ip_adress port area_callsign [ZONE_callsign]
```

ip_address	接続先のレピータのグローバル IP アドレス
port	接続先の待ち受けポート番号 通常は 51000
area_cakksign	接続先のレピータのエリアコールサイン
zone_callsign	接続先のレピータのゾーンコーサイン

でも、接続できます。なお、dmonitor はデーモンで起動する様に作られていますので、起動直後、制御が戻ります。